

以上とし、養蚕経営の近代化、養蚕の主要化、專業化、生産性の向上対策を強力に推進する。麦類の今後の方向としては小麦の需要は横ばい状態で推移すると思われるので、労力節減と反収の増加をはかる。裸麦の需要は激減が見込まれているので経済的に有利な他作物または地方維持作物への転換、二条大麦については適品種の導入による増反増収をはかる。

## 農業構造の改善

本県の農業構造の特質は全国の場合と

表5 農業構造改善事業地域指定および事業実施計画

区分	年次										
	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	
一般地域	計画地域	(3,100)	(500)	(300)	(400)	(400)	(500)	(500)	(500)		
	実施地域	(3,100)	(101)	(200)	(300)	(550)	(550)	(500)	(500)	37	18
	初年度	101	6	8	12	19	19	19	18		
パイロット地区	計画地区	3	3								
	実施地区	3	3	3	3						
	初年度	101									
2	101								18		
3	101								19	18	

注) ( ) 内は、国の計画地域および実施地域数である。

その他畑作物についてもそれぞれ所要の施策を講ずる。病害虫対策については今後主産地形成の進展により病害虫の発生様相は今まで異なり時には集中多発の発生型も予想されるので、病害虫防除組織の強化、病虫害発生予察の強化、危害防止等の施策を推進する。

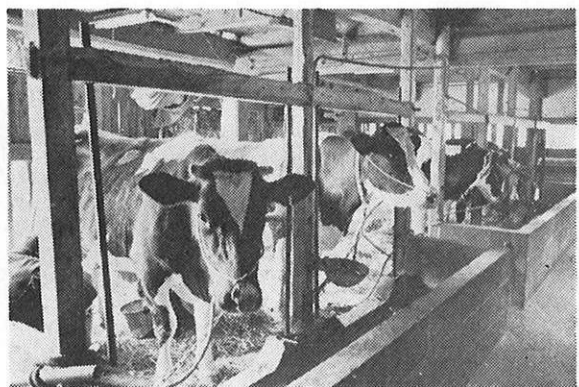
このため、これらの変化に即応して農業側からの改善の可能性がでてきた。農業構造の改善というものは、他産業との生産性、および所得の均衡を目ざして変化条件をかえていくことによって農業構造を構成している要因のあり方を変えることである。そのための施策は農政施策としての経営施策と外部的要因に対する施策としての一般産業経済政策に区分され、後者は国の施策の分野が多いが、こ

の両者を並行して強力に推進するとともに農業者自からも自主的に外部要因に適応していく必要がある。経営施策としては、農業経営者の問題、経営規模、土地条件、技術的諸条件などの整備の問題などがある。

農業構造改善のための一般施策として、近代的農業経営者の養成確保、経営規模の拡大と自立経営農家の育成、経営活動規模拡大の促進、協業の促進、農業労働力の流動化促進、農村環境の整備などの総合的有機的に推進される。農業構造の改善という仕事は多方面に亘りかつ困難の多い事業で短期間でその成果を期待することはできない。

昭和三十一年度にはじめられた農業構造改善事業促進対策も、こうした構造改善対策の一環としての意味をもつものであって、これによって農業構造の改善がすべて完結するという性質のものではない。これはあくまでも促進的な意味をもつものである。県内における本事業の推進では、県農業の歴史的發展過程、農業をとりまく諸問題、地域の特性、将来の方向など県農業が内包外接している諸問題の上に立って、国の施策に呼応しながら県計画の基本方向を軸として事業の総合性、有機性を重視しながら、地域の実態に即して推進することとしている。

この事業はパイロット地区と一般地域に分けられ、パイロット地区は、酪農パイロットとして飽託郡託麻村小山戸島地区、養蚕が玉名郡菊水町中央地区、みかんが牛深市浅海地区の三地区で、一般地域は市町村の区域を対象とし、三十七年六地域、三十八年八地域、三十九年一二地域を事業実施地域として指定し、それぞれ事業を実施中であるが、今後は、農業者の自発意欲と市町村や農業団体の整備強化を前提として次の計画により全市町村の指定を完了する予定である。



酪農パイロット地区も順調に伸びている(小山戸島地区)

なお、この事業の再度実施については、一部の市町村で行なわれているが早急な制度化が切望されている。

## 現地ルポ

十年前の昭和三十年につくられた、五和町の果樹園共同防除施設は、県下ではじめてのものであった。当然、参考にする施設が熊本にないので、佐賀や愛媛に勉強にかけた。先進地の愛媛にもまだなかったという。

昭和三十一年度構造改善事業で、さらに五地区の共同防除施設が完成したので、計九地区、受益範囲は二二〇畝となり、五和町みかん栽培面積三五〇畝の六〇％をカバーすることになる。これだけの規模のもものは、やはり県下でここだけ。

五和町の共同防除施設は、定置配管の方法を採用した。計画にあたって、県の技術者とも研究を重ね、スワイスプレーヤーも考えられたが、能率はたしかに良いが、スプレーヤー一台当りの散布面積が少なく、薬剤費が倍近くかかることが難点となった。短期日で防除を終ろうとすれば、人手はくが、今のところ、共同防除組合員の人海戦

## 共同防除の先駆者

天草郡五和町の場合

五和町のなかでも、最もみかん園が集中し、また、歴史も一番古い、志田の原地区の場合など、理想的な地形をみる事ができる。小さな三つの山脈が周囲をつんで、小盆地を形成しているから、中央の谷間から一斉にポンプアップができる。山頂に送られた水や薬剤は、今度は、山麓に拡がるみかん園に、そこそこの効率的に散布されることになる。五和農協の吉田参事があける共同防除の効果は、みかん園地化の促進、防除の徹底によって薬剤費が減少、生産果実の均一化、そして市場価格の向上などである。八百畝までの増反と流通機構にどうのせるか、そして、加工施設にも手を及ぼしたい、とこれからの問題もつけ加える。計画中の新しい産業道路が、五和町の陵線を走るならば、沿線のみかん園でうずめたいと地元では張切っている。

## 基盤整備の開発と農地保全

本県農業の生産性の低さの一要因として農業生産基盤の整備のおくれ(進捗率二五%)が指摘される。戦後の基盤整備は食糧増産という面から、水田の用排水改良や開かん、干拓などの事業が推進されてきたが、いぜんとして用排水不良田備や未整備の場が多く、しかも農道の整備が特におくれ、その上耕地は分散(一戸平均七・九団地、最大三八・四団地)し

ている。そのため最近の新しい農業機械の導入がいちぢるしく阻害されている。本県の土地基盤整備がこのように遅れているのは、一、海岸線が長く干拓地が広い。二、気象的災害が多い。三、特殊土壌地帯や急傾斜地帯が多いなどの特殊性に起因することが多い。しかし、今後農業は零細農耕から脱皮して経営規模を拡大し革新技術を導入し労働生産性を引

き上げることがもつとも重要であり、そのため大型機械、大型施設利用の方向に発展することを考えあわせると、これらの効率を十分に発揮させるためには、ほ場の整備や農道の新設改良など基盤整備事業の強化は、重要かつ緊急な課題である。

したがって、今後この事業に取り組む基本的な方向としては、国営の大規模干拓事業を推進するし、その他については新規をしばらく見合わせる。継続地区の早期完了をはかる。農業機械化の基礎条件整備の立場から、区画整理、農道、暗きよ排水などは場条件の整備(集団化を含む)に力を注ぐとともに、湿地解消のための排水を中心とした用排水改良事業の推進をはかる。特に、中山間・山間地では、農地集団化や農道事業を重点とし、また成長作目の規模拡大をねらった樹園地、草地など農用地開発および農地保全を強力に推進する。また、水資源については、用水の有効利用をはかるため、他

種水利との調整、総合的な開発を積極的に推進する。このため、具体的には次のような施策を強力に推進する。農用地の整備については、生産性の向上、特に労働生産性の向上を重視する意味から表六のとおり、水田・畑とも、かんがい排水施設の整備、ほ場整備および農道の整備を重点的に行なう。耕地の拡張については、耕地規模を拡大し自立経営農家を育成するため、(表六)のとおり農用地の造成および干拓を実施する。農地保全については、本県の農地が気象条件や地理的条件にわざわいされて出水に弱いうえ、最近急傾斜地帯において果樹園の造成が急速に進められたため、強い出水があるなど災害を蒙っている。そこで、山間地帯から海岸線に至るまでそれぞれに適合した農地保全事業を実施し災害を未然に防止する。